

【数学科・中1・「平面図形」】①

育成を目指す資質・能力

<本時のねらい>

与えられた条件のもとで平面図形の移動を考える場面において、グループや全体で説明し合う活動を通して平面図形の移動に関する考えを深め、移動の方法を正確に説明することができるようにする。

ICT活用のポイント

生徒や教師の「考えの共有のしやすさ」 生徒同士の「よさの気付き」 教師の「指名のしやすさ」

【つかむ】

問題を把握して、展開図の直角三角形（もう一方）を考える。

【追究する】

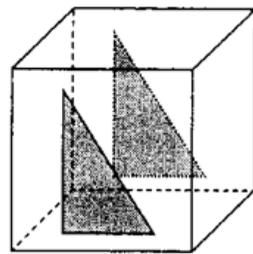
具体物を操作して、移動方法を考える。移動方法を共有して、グループで説明し合う。

【まとめる】

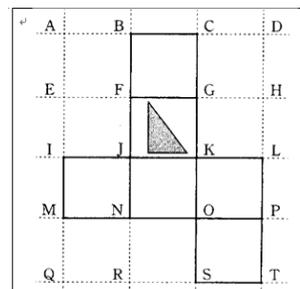
お互いの考えを評価し合い、自分の解法を振り返る。

事例の概要

<問題の概略> 立方体の2つの面に、合同な直角三角形がある。
展開図を考え、直角三角形を、もう一方に最短ルートで移す方法を説明する。

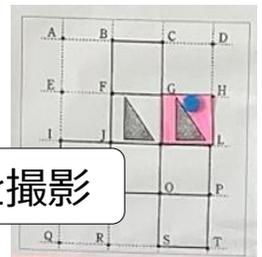


展開



ICT活用①

動かす過程を撮影



ICT活用③

お互いの考え方を評価して、振り返りを入力



ICT活用②

考え方を共有して説明

【数学科・中1・「平面図形」】①

【事例におけるICT活用の場面①】

個人の考えを撮影



自分の考えを、
撮影しましょう。



与えられた条件（最短ルート）の下、図形を移動する方法について、具体物进行操作して考えた。動かした具体物を、撮影したことで、図形が移動する過程が分かりやすくなった。

【事例におけるICT活用の場面②】

「画像」を「電子黒板」と「ICT端末」で共有



友人と自分の考えを、
比較してみましょう。



考えを共有する際、電子黒板やICT端末を使ったことで、教師が生徒の考えを把握しやすくなった。また、お互いの考えのよさをグループで協議したことで、新たな発見をしやすくなった。

【事例におけるICT活用の場面③】

「相互評価」の共有



友人の考え方を、
評価しましょう。



事前に提示されていた評価基準（A～C）をもとに、評価をICT端末で送る。お互いを評価し合うことで、自分では気づかなかった解法のよさ等について考え直す習慣が身に付いた。

【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト（データ提出・一覧表示）、写真撮影